

学 位 論 文 の 要 旨

三 重 大 学

所 属	三重大学大学院医学系研究科 看護学専攻（博士後期課程） 看護学領域 看護教育学分野	氏 名	牛場 かおり
-----	---	-----	--------

主論文の題名

多職種が関わる退院支援における病棟看護師のコーディネーション自己評価尺度の開発

主論文の要旨

【目的】

本研究の目的は、多職種が関わる退院支援における病棟看護師のコーディネーション（Coordination by Ward Nurses in Discharge Support : CWNDS）内容を可視化し、病棟看護師がCWNDSを自己評価できる尺度を開発することである。

【方法】

予備調査 1 としてCWNDSを明らかにする目的で多職種医療専門職23名の面接調査を行った。質的帰納的に分析した結果、『ケアにつなぐための患者・家族の意向のくみ取り』『患者・家族・院内の多職種間における意見の相違に対して方向性を定める関わり』『患者・家族・院内の多職種間の情報伝達・共有』『退院後の問題に患者・家族・院内の多職種が合意できるようにする関わり』『院内外の関係者によって退院後の療養環境を整える関わり』の5要素が抽出された。この結果と「退院支援における病棟看護師のコーディネーションの概念分析」で抽出された6つの属性を対比させ、CWNDSの尺度原案として6つの構成概念【患者・家族の意向をケアにつなぐ】【患者・家族・多職種の仲をとりもつ】【関係職種間で目標・情報をつなぐ】【退院後の問題解決方法を捻出する】【退院後の環境を整える】【新たなシステムを取り入れる】からなる35項目の尺度原案を作成した。予備研究2-1で、尺度原案の内容妥当性を看護研究者と博士課程大学院生を対象に検討し、予備研究2-2で、病棟看護師11名を対象にプレテストを行い、6つの構成概念からなる28項目の尺度決定案となった。

本調査では、東海地方で承認が得られた200床以上の42病院の病棟看護師1668名を対象に、信頼性と妥当性の検証のため2回の質問紙調査を行った。1回目は尺度決定案と既存の病棟看護師の退院支援実践自己評価尺度（DPWN尺度）、2回目は再テスト法のため尺度決定案で構成された。42病院の担当者に2つの質問紙を同封して送付し、対象者への配付を依頼した。

尺度決定案の構成概念妥当性の検討では探索的因子分析と確認的因子分析を、基準関連妥当性の検討では既存のDPWN尺度を用いた。信頼性の検討として、尺度の内的整合性では尺度全体お

よび下位尺度のCronbach's α 係数を算出し、再テスト法では調査1回目と2回目の尺度得点をSpearmanの順位相関係数を用いて検討した。

【結果】

本調査1回目は、682名から回答が得られ（回収率40.8%）だが、同意記載がなかったり、退院支援経験がない対象を除く542名（有効回答率79.4%）を、2回目は、391名から回答が得られ（回収率 23.4%）だが、1回目で除外した対象を除く313名（有効回答率80.0%）を分析対象とした。探索的因子分析では、最尤法、プロマックス回転を行い、3因子26項目となった。第1因子は『在宅移行に向けた関係者間の橋渡し』、第2因子は『退院支援システムの改良』、第3因子は『患者・家族の意向の尊重』とした。確認的因子分析では、モデル適合度は、GFI= .86、AGFI= .83、CFI= .90、RMSEA= .072であった。基準関連妥当性では、尺度全体のSpearmanの順位相関は、 $r_s = .69$ ($p < .001$) であった。

信頼性の検討では、CWNDIS尺度26項目全体のCronbach's α 係数は .94であり、再テスト法の尺度全体のSpearmanの順位相関は、 $r_s = .65$ ($p < .001$) であった。

【考察・結論】

CWNDIS尺度は、6つの構成概念を想定していたが、構成概念妥当性の検討の結果、26項目の3因子構造となった。第1因子は、6つの構成概念の内4つを含むことから、病棟看護師が臨機応変に広い視点で物事を捉えて多職種と共に支援をしている内容であると推測される。第2因子は、退院支援システムという枠組みの中での改良への取り組み、第3因子は、病棟看護師として重要な意向支援として抽出された。CWNDIS尺度の3つの下位尺度のうち「退院支援システムの改良」は、これまでに開発された尺度では見られなかった内容であり、この結果は、新規性に繋がると考える。さらに、基準関連妥当性の検討の結果、 $r_s = .69$ で中等度の相関を示した。信頼性の検討では、尺度全体のCronbach's α 係数は .8以上であり内的整合性を確認した。再テスト法の尺度全体は、 $r_s = .65$ で中等度の相関があることが示され、尺度の信頼性・妥当性は概ね確保されたと考える。

以上のことから、CWNDIS尺度は、多職種が関わる退院支援において同時進行的に行うCWNDISを測定するのに妥当な尺度であると考えられる。

今後はこの尺度を用いて、病棟看護師にCWNDISを自己評価してもらうことで、退院支援チームに関わる時のCWNDISの課題を明らかにしたい。その結果に基づいて、CWNDISを高めるための教育的プログラムを検討していきたいと考えている。

研究の限界として、質問紙の回収率が低かったことや有効回答率が低かったことから、対象者が偏り、調査結果に影響を与えた可能性がある。